

実践例「学習指導の深化・充実」

「課題5 個性の伸長を重視した指導計画・実践・評価の改善・充実」

I、学校名 岩見沢市立美流渡小学校

II. 研究の概要

1. 研究主題

自ら考え、学びを深める子どもの育成
～少人数、複式学級の特性を生かした算数科学習指導の工夫～

2. 研究主題設定の理由

(1) 社会から求められている視点

学習指導要領では、「生きる力」を支える確かな学力を育成するために、基礎的・基本的な知識・技能の習得を重視することに加えて、その活用を図る学習活動や探求活動を質的に充実させること、言語活動を充実させることが求められている。

(2) 本校教育が求めるものの視点

教育活動全体において、子ども達の変容を的確に捉えながら具体的な手立てにより指導と評価の一体化を図り、「教えて考えさせる授業」の改善充実を進めることを基本方針に設定した。

そして、基礎的・基本的な知識や技能の確実な習得とその活用を充実させること、教育活動全体において思考力・判断力・表現力を育成することを重点に日々の授業実践に取り組んでいる。

(3) これまでの研究の経緯・児童の実態の視点

本校ではこれまで4年間をかけて、言語活動の充実を通じた研修を行ってきた。

前半2年間では、国語科を中心に児童に「身につけさせたい力」を明確にし、実践を積み上げ、児童一人ひとりが自分の考えを持てるようになってきた。そして、それを土台に全教科に渡って適切な言語活動を見極めた指導の充実に向け取り組んだ。その成果として、「考える力」「伝え合う力」がついてきたことが挙げられた。しかし、「深める力」については課題が残されたため、この「深める力」をつけるために、「ふり返り」の場面を設定した。

この4年間の研究で、児童に思考力・表現力がはぐくまれ、児童の思考に「深まり」が生まれてくることができた。しかし、少人数では「伝え合い」「深め合い」の成立が困難、児童自身の向上心が育ちにくい、複式の学習形態においては指導時間の時間配分の問題など、研究を進めるにあたっての課題も残された。

こうした経緯から、昨年度からは、日常生活や国語科を中心に身につけた「話す力」「聞く力」「書く力」「読む力」=『言語力』を土台に、「算数科」における

言語活動の充実を工夫しながら、一昨年度までの研究の積み重ねを「算数科」の教科に絞って検証することとした。1年次の成果や課題をふまえ、今年度は確実に「思考力」「表現力」が身につけられるようにしていく。さらに本研究をすすめるにあたっては、本校の現状から、少人数・複式の学習形態における効果的な指導法についての研究も並行して行っていくこととする。

なお研究の推進にあたっては、児童の実態を的確に把握し、実態に応じた形で進めていく。

3. 研究の仮説

児童に「身につけさせたい力」を明確にするとともに、思考する場面を設定し、適切な言語活動を見極めて指導を工夫する。そうすることで、自ら考える力をつけていくことができるだろう。

視点①

児童の実態を的確に把握した上で、児童に「身につけさせたい力」を明確にして指導する。

視点②

「考える場面」「振り返る場面」をくり返し設定する。

視点③

土台となる「基礎・基本の力」をしっかりと定着させるための工夫をする。

具体策①

A. 児童の実態把握

- ・チェックシート
- ・学力テスト
- ・レディネステストなど

B. 獲得されている・されていない力に対応できる目標の設定。

C. 単元等の目標を実現している児童の姿を、具体的に想定する。(→指導と評価の一体化)

具体策②

A. 「考える場面」の設定

- ・どうして？たぶん・・・もし～のある授業
- ・おもしろい すごい ふしぎだのある授業
- ・やってみたい できそうだのある授業

B. 「振り返る場面」の設定

- ・考えを整理する。
- ・考えを見直す。
- ・考えをまとめる

具体策③

A. 指導の工夫

- ・ノート指導、板書の工夫、課題提示のしかた、学習リーダーの育成、i padの活用、電子黒板の利用、複式の授業形態の工夫（同時間接指導など）、ワークシートの活用、ヒントカード、児童による授業評価など

B. 個別の支援

4. 研究計画

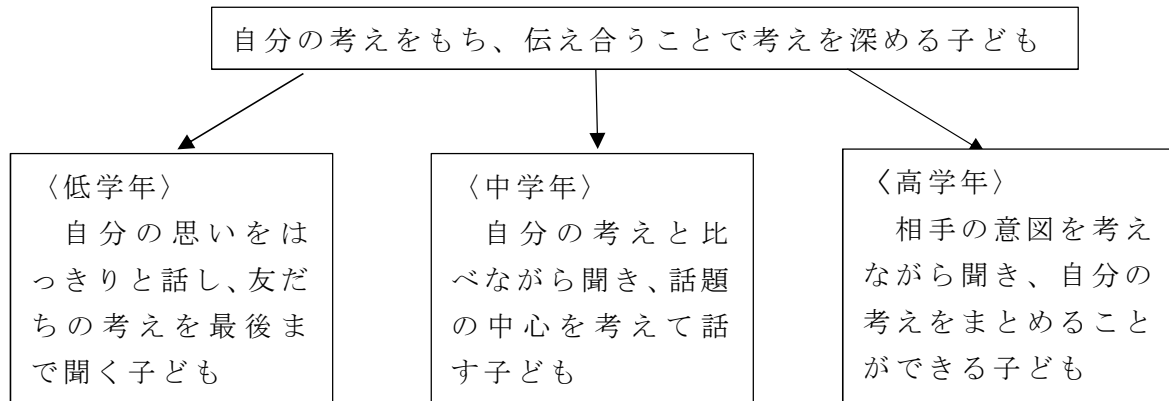
研究年次 1年次/2年計画

1年次 理論研究・授業実践交流・実践の検証

2年次 理論研究・授業実践交流・研究のまとめ

5. 研究内容

(1) めざす子供像



【学習活動における子どもの姿】

| | 低学年 | 中学年 | 高学年 |
|----|--|--|--|
| 話す | <ul style="list-style-type: none"> 順序に気をつけてはっきりと話している。 話題からそれないように話している。わからないことを尋ねている。 | <ul style="list-style-type: none"> 筋道立てて話している。 進行に沿って話し合っている。 | <ul style="list-style-type: none"> 目的や意図に応じ、聞き手を意識しながら話している。 互いの考えを尊重しながら、話し合いを深めている。 |
| 聞く | <ul style="list-style-type: none"> 大事なことを落とさずに最後まで聞いている。 | <ul style="list-style-type: none"> 話題の中心になっている内容を考えて聞いている。 | <ul style="list-style-type: none"> 話し手の意図を考えながら聞くと同時に、自分の考えをまとめている。 |
| 書く | <ul style="list-style-type: none"> 伝えたいことを順序に気をつけて書いている。 | <ul style="list-style-type: none"> 相手や目的に応じて、よりはっきりと伝わるように工夫して書いている。 | <ul style="list-style-type: none"> 目的や意図に応じて、表現の効果を考えながら書いている。 |
| 読む | <ul style="list-style-type: none"> 内容や場面の様子を押さえ、想像を広げて読んでいる。 楽しんで読書をしている。 | <ul style="list-style-type: none"> 目的に応じて、自分の考えをまとめたりしながら読んでいる。 目的に応じて、幅広く読書をしている。 | <ul style="list-style-type: none"> 内容や要旨をとらえながら読み、自分の考えをまとめている。 読書をとおして、考えを広げたり深めたりしている。 |

(2) 基礎基本に重点を置いたとりくみ

昨年からはじめた研究は、これまでの行ってきたとりくみを継続しつつ発展させ、児童に確実に基礎基本の力をつけるというものである。

①ノート指導～「上手なノートの作り方」を設定し、どの学年でもノートの書き方が同じになるように指導を行っている。特に、今年度は「ふり返り」の時間を大切にし、児童が一時間の中でどのようなことが理解できたか、またわからなかったことは何かなどを書くことで、思考の整理ができるようにした。

②書く力をきたえて、伝える力を高める取り組み

自分の考えを伝えるための準備として、その考えを「書く」過程がある。「書く」ことによって、自分の考えを整理することができるばかりか、発表への自信も高まるという効果がある。しかし、本校の児童の実態から、そもそも「書く」こと自体の力をつけなければならないという課題が見えてきた。そこで、一昨年度から「百マス作文」の継続的に取り組んでいる。学年によって頻度は違うが、主に帰りの会～放課後の時間帯で取り組んでいる。高学年では、3分間という時間指定をしたり、作文に書いた内容を五・七・五で表したりしている。テーマは教師側から指定したり、児童自身が決めたりとさまざまであるが、児童が取り組みやすいテーマ設定になるように工夫している。低学年は、最初は書けなかったのが、徐々に文字数が増えてきて書けるようになってきた。また、月によっては、学年別の『使えるようにしたい言葉』を使って作文を書こうというめあてを決めて、さまざまな表現のしかたを身につけていけるような取り組みにしている。

③学習ルールの指導

本校では、学習に向かう基本的な姿勢を、“学習のルール”としてかかげ、全校児童に一貫した指導を行っている。

【美流渡小 学習のルール】

- ①授業が終わったら、次の授業の学習用具を準備しよう。（教科書、ノート、よく削れた鉛筆、赤色鉛筆、よく消える消しゴム、短い定規 など）
- ②チャイムの前に席に着き、チャイムの合図で学習を始めよう。
- ③姿勢を正し、人の目を見て集中して話を聞こう。
- ④正しい言葉遣いで発表しよう。
- ⑤ノートを上手に作ろう。

6. 成果と課題

①成果

- ・身につけさせたい力を確実に明確にしたことで、ほぼ身につけさせることができた。
- ・考える場面、ふり返る場面を設定することで、児童がどこまでわかったのか、わかっていないのかに気づくことができていた。
- ・ノートの作り方を継続して行っていることで、ふり返りのしやすいノートになっているので、わからないことがあっても、ノートでふり返って確認することができた。

②課題

- ・一人学年が多く、交流する場面がなく、伝え合ったり深め合ったり他の意見に触れ合ったりすることができない。
- ・複式の学習形態での一人学習のため、つまづいた時にその場で止まってしまう。